

令和6年度 第1回理事会

日 時：令和6年4月5日（金）16：00～

場 所：森林総合研究所（つくば市）特別会議室

I．報 告

- 1．令和6年度機構会議等の日程について〔総合調整室〕
- 2．令和5年度の特定母樹の指定及び優良品種の開発について〔林木育種センター〕
- 3．令和5年度における林木遺伝子銀行110番の実施状況について〔林木育種センター〕
- 4．令和6年度森林保険普及・加入促進活動計画について〔森林保険センター〕

II．その他

- 1．今後の主な会議・行事予定について
- 2．主要行事
- 3．森林総合研究所が広報普及した主な研究成果等について

理 事 会 資 料
令和 6 年 4 月 5 日
総 合 調 整 室

令和 6 年度 機構会議等の日程について

このことについて、下記のとおり開催しますので、お知らせします。

記

開催日：令和 6 年 5 月 28 日（火）、29 日（水）

会 場：森林総合研究所大会議室 等

開催会議

- ・ 産学官民・国際連携推進本部会議
- ・ 機構会議
- ・ 業績審査委員会(研究・育種)
- ・ 地域情勢交換会議(支所・園長個別打合せ)

理 事 会 資 料
令和 6 年 4 月 5 日
林木育種センター

令和 5 年度の特定母樹の指定及び優良品種の開発について

1 特定母樹の指定

令和 5 年度に森林総合研究所林木育種センターが特定母樹として申請した 32 系統について、農林水産大臣により指定を受けました。

樹種名	系統数	内 訳
スギ	16	エリートツリー 12 (関東 12)
		第二世代精英樹 4 (東北 4 (青森県 (1 件)、山形県 (3 件) との共同申請))
ヒノキ	9	エリートツリー 9 (関東 4、関西 1、九州 4)
カラマツ	4	エリートツリー 3 (東北 3)
		第二世代精英樹候補木 1 (北海道 1 (北海道との共同申請))
トドマツ	3	第二世代精英樹候補木 3 (北海道 3 (北海道との共同申請))
合 計	32	

注 1：エリートツリーとはエリートツリー選抜実施要領第 6 条に基づき決定された第二世代以降の精英樹。

注 2：内訳欄の（ ）内は育種基本区別の系統数。

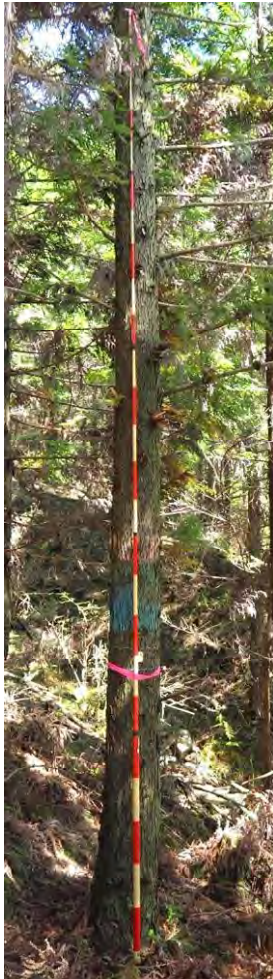
2 優良品種の開発

令和 5 年度に森林総合研究所林木育種センターでは、優良品種 30 品種を開発しました。

品種の種別（樹種名及び種類）	育種基本区	品種数
初期成長に優れた第二世代品種（スギ）	関東	3
初期成長に優れた第二世代品種（カラマツ）	東北	2
花粉症対策品種（無花粉スギ）	関西	3
花粉症対策品種（無花粉遺伝子を有するスギ）	関東	1
マツノザイセンチュウ抵抗性品種（アカマツ・第 2 世代）	関西	3
マツノザイセンチュウ抵抗性品種（アカマツ・第 1 世代）	関東	1
	関西	8
マツノザイセンチュウ抵抗性品種（クロマツ・第 1 世代）	東北	2
	関東	1
	九州	6
令和 5 年度開発実績数 合計 ※（ ）書きは年度計画における開発目標数		30 (30)
第 5 期中長期計画期間における開発実績数 令和 5 年度までの累計 ※（ ）書きは計画期間全体の開発目標数		102 (150)

【参考】

○令和5年度に指定された特定母樹の事例（エリートツリー）



<樹 種> スギ
<指定番号> 特定 5-26
<名 称> スギ林育 2-430
<樹 令> 22 年生 (R6.3 月末)
<胸高直径> 19.0 cm (15 年次)
<樹 高> 10.8 m (15 年次)
<材 積> 0.150 m³ (15 年次)

(参考)

対照個体(69 本)の平均値
<胸高直径> 12.8 cm (15 年次)
<樹 高> 8.9 m (15 年次)
<材 積> 0.055 m³ (15 年次)

※写真は 22 年次撮影



<樹 種> ヒノキ
<指定番号> 特定 5-11
<名 称> ヒノキ九育 2-10
<樹 令> 52 年生 (R6.3 月末)
<胸高直径> 21.0 cm (29 年次)
<樹 高> 11.5 m (29 年次)
<材 積> 0.199 m³ (29 年次)

(参考)

対照個体(127 本)の平均値
<胸高直径> 16.3 cm (29 年次)
<樹 高> 9.8 m (29 年次)
<材 積> 0.102 m³ (29 年次)

※写真は 51 年次撮影



<樹 種> カラマツ
<指定番号> 特定 5-5
<名 称> カラマツ東育 2-52
<樹 令> 35 年生 (R6.3 月末)
<胸高直径> 18.0 cm (30 年次)
<樹 高> 25.8 m (30 年次)
<材 積> 0.749 m³ (30 年次)

(参考)

対照個体(107 本)の平均値
<胸高直径> 21.1 cm (30 年次)
<樹 高> 21.6 m (30 年次)
<材 積> 0.349 m³ (30 年次)

※写真は 34 年次撮影

特定母樹の指定状況（H25年度～R5年度末）

樹種名	系統数	内 訳	
スギ	242	エリートツリー	176（東北45、関東57、関西56、九州18）
		第一世代精英樹	21（東北9、九州12）
		第二世代精英樹	13（東北13）
		花粉症対策品種	10（東北1、九州9）
		その他（第二世代雪害抵抗性品種候補木）	22（東北22）
ヒノキ	67	エリートツリー	67（関東21、関西41、九州5）
カラマツ	97	エリートツリー	96（北海道1、東北23、関東72）
		第二世代精英樹候補木	1（北海道1）
グイマツ	1	第一世代精英樹	1（北海道1）
トドマツ	32	エリートツリー	29（北海道29）
		第二世代精英樹候補木	3（北海道3）
合 計	439		

注：間伐等特措法に基づく特定母樹の指定制度が導入された平成25年度から令和5年度末までに、森林総合研究所林木育種センターにより申請（都道府県との共同申請を含む）がなされたもの。

○令和5年度に開発された優良品種の事例



左：初期成長に優れた第二世代品種
中：花粉症対策品種 無花粉スギ品種
右：マツノザイセンチュウ抵抗性品種

スギ林育2-289
スギ西育不稔3号
福岡（築上）クロマツ5号

令和 5 年度における林木遺伝子銀行 110 番の実施状況について

1. 事業の概要

林木育種センターでは、林木遺伝資源の総合的な収集、管理、利用を目的とした林木ジーンバンク事業として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、所有者からの要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

具体的には、学校等の機関、個人等が所有する文化的価値が高い樹木が高齢等により衰弱している場合などで、これらの機関等から当センターに同一の遺伝子を受け継いだ後継クローン苗木の増殖の要請がなされ、さし木やつぎ木等によりこれら後継クローンを増殖するものです。

増殖したクローン苗木は、所有者のもとへ里帰りし、地域のシンボル等として親しまれているところです。また、これらのクローン苗木は、当センターで林木遺伝資源として保存し、研究材料として活用します。

2. 里帰りの実績

令和 5 年度には新たに 7 件の申請を受入れ、7 件を里帰りさせました。当事業は平成 15 年度から開始されましたが、令和 5 年度末までに 257 件・319 点の里帰りが実施されました。

(参考) 令和 5 年度の主な里帰り事例



鳳寺の双龍杉の原木(左)と後継苗木(右)
(北海道釧路町)



教林坊のモミジの里帰り
(滋賀県近江八幡市)

令和 6 年度森林保険普及・加入促進活動計画について

「森林保険普及・加入促進戦略」と「令和 6 年度森林保険普及・加入促進活動計画」を策定したところであり、今後はこれに基づく各種取組を着実に進める。

1. 普及及び加入促進のための広報活動

森林保険制度を広く知っていただき、森林所有者が森林保険への理解を深めることで、森林保険の加入促進につながるよう、ウェブ媒体の活用や広報誌等の発行をはじめ、様々な手法で普及広報及び情報提供を展開・推進する。

各種広報活動の推進にあたっては、新たな公式キャラクターを活用し、森林保険の認知拡大効果を高めることとする。

また、森林総合研究所と連携して実施している森林気象害リスク評価に関する研究に関する成果報告と森林保険の普及のためのシンポジウムを開催し、効果的な情報発信を行う。

2. 加入促進

森林組合系統と連携し、保険契約面積の減少傾向から脱することを目標に加入促進に取り組むとともに、I 齢級の森林について重点的に普及・加入促進に取り組む。

また、普及・加入促進活動を効率的、効果的に実施するため、森林保険の動画を活用するなど新たな取り組みを進める。

(1) 造林補助事業と連携した取組の推進

林野庁が令和 5 年 10 月 18 日に都道府県あてに発出した「森林保険加入に係わる指導の徹底について（依頼）」を踏まえて、都道府県や森林組合系統に対し、造林補助事業費が投入された事業地への森林保険の加入の徹底を要請する。

(2) 森林経営管理制度による森林保険の活用推進

都道府県や市町村等に対し、森林経営管理制度における災害リスク対策の必要性や森林保険の活用の有効性等について理解を深めていただき、森林保険への加入を促進する。

(3) 森林所有者等への働きかけの強化

森林所有者等に対し、自然災害による経済的リスクを周知するとともに、森林保険への加入を促進するとともに、森林保険を周知するため、市町村等の広報活動にも資する情報提供等を行う。

(4) 公有林への働きかけ

都道府県や市町村等に対し、災害リスク対策、公益的機能の維持等、森林保険への理解をより進め、加入促進を図るとともに、森林管理署等と連携し、公有林のほか国有林の分収造林等への働きかけを促進する。

(5) 継続加入を推進する取組の実施

森林組合系統と連携して、既契約者のニーズに合ったプランを提案し、データ分析に基づき効果的に森林保険の継続加入を促進する。

3. 研修を通じたスキルアップによるサービスの向上

各種研修等を活用し、森林組合系統の森林保険担当者の育成強化を図る。また、森林組合系統が行う普及・加入促進活動に必要な知識や加入促進のステップ等をまとめた「森林保険の普及・加入促進の手引き（令和 4 年 1 月作成）」を活用した指導等を行い、加入促進の戦力として育てる。

Ⅱ－１

令和 6 年 4 月理事会資料
 国 立 研 究 開 発 法 人
 森 林 研 究 ・ 整 備 機 構

今後の主な会議・行事予定について

日 付	研 究	整 備	保 険	行 事 名	場 所 等
4月14日	○			科学技術週間をもっと楽しもう！SCIENCE & TECHNOLOGY PRE EVENT 2024	つくばセンター広場（つくば駅周辺） （主催：つくばまちなかデザイン、ブー ス出展等：森林総合研究所）
4月17日		○		全国水源林造林協議会連合会 役員会	ルポール麹町（東京都千代田区） （主催：全国水源林造林協議会連合 会、出席：森林整備センター）
4月19日	○			科学技術週間 森林総合研究所 一般公開「 春の森林講座」	森林総合研究所（つくば市） （主催：森林総合研究所）
4月19日	○			近畿中国森林林業技術開発協議会	近畿中国森林管理局 （共催：近畿中国森林管理局、関西支 所）
5月15日		○		全国水源林造林協議会連合会 総会	ルポール麹町（東京都千代田区） （主催：全国水源林造林協議会連合 会、出席：森林整備センター）

主要行事（令和6年3月8日～令和6年4月4日）

月 日	行 事 内 容	出 席 者
3月8日(金)	【共】理事会	理事長、各理事、森林保険センター所長、両監事
13日(水)	大日本山林会理事会	鈴木監事
15日(金)	【研】国際科学諮問委員会	研究担当理事
18日(月)	【共】機構リスク管理委員会	理事長、各理事、森林保険センター所長、両監事
〃	【共】機構コンプライアンス合同報告会	理事長、企画・総務・森林保険担当理事、森林業務担当理事、法令遵守担当理事、両監事
〃	【研・育】不正防止計画推進委員会	企画・総務・森林保険担当理事、法令遵守担当理事
〃	【研】日本ウッドデザイン協会理事会	理事長
19日(火)	【共】情報セキュリティ委員会	企画・総務・森林保険担当理事、法令遵守担当理事
〃	【研】英国上院議員視察(多摩森林科学園)	研究担当理事
21日(木)	【研】農林水産技術会議会長視察	理事長、企画・総務・森林保険担当理事、研究担当理事
22日(金)	【研】業績審査委員会	企画・総務・森林保険担当理事、研究担当理事
25日(月)	【研】IUFRO-J 2024(令和6)年機関代表会議	理事長、研究担当理事
26日(火)	【研】地球温暖化対策研究の重複排除と連携強化に係る会議	研究担当理事
4月1日(月)	【研】入所式	理事長、企画・総務・森林保険担当理事、研究担当理事
〃	【育】入所式	育種事業・森林バイオ担当理事
2日(火)	庁議	理事長

※【研】：森林総合研究所、【育】：林木育種センター、【整】：森林整備センター、【保】：森林保険センター、【共】：共通の行事の略

森林総合研究所が広報普及した主な研究成果等について

○ 前月以降公開済の研究成果

	広報タイトル	研究者・担当者名	掲載誌名	論文公開時期	備考
1	傾斜緩道に近い林地で皆伐が増加、局地的な資源量不足に注意	ヤマタ リョウスケ 山田 祐亮 森林管理研究領域	日本森林学会誌	2023年7月	
2	森林の訪問・体感利用が描き出す持続可能な社会への可能性	ヒラノ ユウイチロウ 平野 悠一郎 多摩森林科学園	林業経済	2023年11月	
3	里山の赤トンボが生息地ネットワークを形成するための地理的条件を解明ー保全に必要な生息地同士のつながりを再生するためにー	ヒガシカワ ワタル 東川航 九州支所	Conservation Genetics	2023年12月	プレスリリース
4	文化遺産としての価値を認識することが草原の保全につながる	ヤマキ カズナリ 八巻 一成 森林管理研究領域	Forests	2023年7月	
5	地すべり発生リスクの推定に向けた高精度な地下水圧予測モデルの開発	オオサワ ヒカル 大澤 光 森林防災研究領域	Landslides	2023年11月	
6	間伐によるスギ林の蒸散量の減少は数年で元に戻る一幹の中を上昇する樹液の速さの増大がカギ	イダ シンイチ 飯田真一 森林防災研究領域	Science of the Total Environment	2023年12月	プレスリリース
7	ドローンを活用、国内最大規模の雪崩の発生要因を調査	カツヤマ ユウタ 勝山 祐太 森林防災研究領域	Journal of Disaster Research	2023年12月	
8	多雪地域由来のトドマツ苗木は雪解け直後から根の発達が進む	スガイ テツト 菅井 徹人 北海道支所	International Journal of Plant Sciences	2024年1月	
9	広葉樹10種の落葉と枯死木の朽ちる速さに関連なし	コバヤシ タクヤ 小林 卓也 北海道支所	Oikos	2023年12月	
10	樹幹流の放射性セシウム起源、外樹皮から葉に変化	サカシタ ワタル 坂下 渉 震災復興・放射性物質研究拠点	Journal of Environmental Radioactivity	2024年1月	

○ 最近のシンポジウム・イベント

	名称	担当	主催等	開催場所	開催日	備考
1	科学技術週間をもっと楽しもう！ SCIENCE & TECHNOLOGY PRE EVENT 2024	森林総合研究所 企画部広報普及科	つくばまちなかデザイン	つくばセンター広場 (つくば駅周辺)	4月14日(日) 10:00～15:00	
2	科学技術週間 森林総合研究所 一般公開「春の森林講座」	森林総合研究所 企画部広報普及科	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所	森林総合研究所 (つくば市)	4月19日(金) 9:30～11:45 13:30～15:45	事前予約制